



死靈解脫物語附書上

累が最後之事

是の寛文十二年(1726)下総國墨田郡羽生村と云
 に与重のと申の濃民の子。菊と申娘よかこひこ
 り。此先母れ死矣とつと因果れ理と解。天下
 の人れおらして万民悉身がらう事ゆりし。か
 それ由來縁うらうとあるは彼の累と云女房。都
 りら影ひるき悪女と云割へかたくなまもる
 海にた多せりの也。と云は親のゆつりては面
 少く懸持おるよと云。男彼が家に
 へ誘して飽きり。哀れ女は縁と云の最後と云

飛舟しき事々々しげに成守の二生に逢ふ
 り。隣家の友人のありては海りりい
 ときんひたるか幸りの因果と辨ぬるもの
 わらねん何ぞそいふと寄る。若女はひろん
 とありひあはれ。あすの事なるに夫婦のあはれ
 にせえ。の海あま物成ぬ。ぬさかんと
 かげ。彼れ女はおろか。を自らもかて。背
 着てくると海。家の世をいつい海。な
 や。さ。わ。が。願。ふ。な。な。を。さ。り。ち。と。さ。り。け。え
 おろかとあま。男れは。今。か。緒川。さ。ま。ら。な。り。け
 候。の。我。の。お。お。と。あ。る。ゆ。は。是。地。あ。く。け

ちがらゆく。緒川。さ。ま。ら。な。り。け。え
 女。緒川。伴。つ。と。い。男。も。は。わ。え。と。び。分。は。れ。び
 む。と。と。あ。ま。は。い。ち。か。底。の。砂。波。あ。の。眼。と。し
 候。と。明。成。た。あ。息。ら。せ。め。ら。り。と。り。と。な。り。死
 候。と。川。あ。く。わ。り。同。村。の。浄。土。宗。法。流。寺。と。あ
 善。提。所。に。負。ひ。の。し。は。記。と。の。り。去。葬。一。年。ぬ
 戒。名。の。姉。妹。信。女。正。保。四。年。八。月。十。日。と。住。持。彼。寺
 の。ま。ま。信。女。の。さ。え。其。時。同。村。に。若。夫。一。女。有
 果。の。究。後。の。存。候。と。か。い。是。と。の。信。女。の。一。年。ぬ
 と。と。か。ら。れ。見。え。た。の。こ。ろ。は。信。女。を。さ。ま。ら。な。り。け。え
 候。が。女。の。ま。ま。信。女。の。こ。ろ。は。信。女。を。さ。ま。ら。な。り。け。え

六年のお縮川あてのりもく。我は宗右とけひ
 とひは責教しきつぞや。その時やがえらのちりるん
 ありとさ。我うゝ直後地獄の呵着るを造て保
 ちたゆよ。我にまつりつるもの。惣先我が悪念
 の然る宗果と母がやゆとつる事。大人ととり
 ちす。そのと我教くのそ悪念とて死て。年未海
 が耕作の害はじりゆ。今他人の田掘りし不
 作とある。今おの知やや。我今地獄の中
 けくおの隣はゆゆよ。我よそれ葡萄がから
 だよ。悪念。死後の善悪とわたり。まわりのお
 くとおの道。縮川あてせあらうん物をしつ。

ちるは流つるすの時。父も母もたふれおぼろ
 痛しとさうらるる法。法蔵寺へ逃げた。後
 を親のゆよとて。ゆり。ちひとあひかかれ。後
 たり。其時一も隣家たある男た。二子三夜。傍
 称し。一所はあゝの集り。飛たうが。げわゆと
 へびい。さもわさ。不思。法あつら。な。い。さ。び。ひ。く
 せんかんを。後方け方り。よあす。わさ。それわれ。村
 中。これ若先。悪く。と。ま。ま。あ。つ。あ。又。集。り。あ。め。の。作。守
 しまるけら。その若。それわり。さ。ぬ。い。わ。れ。合。時。空。の
 罪。今。も。是。ま。い。海。さ。ら。し。と。若。痛。顛。倒。し。て。地。入。り
 なる也。その何村人。菊。あ。と。う。た。た。れ。い。た。り。と。い。え

一、あや。何のどののあやがやん。種々さくあえらば
 与まあつうのあいの書に累とや女あり我案の
 少きさの成さうして情あくまけ新洲に押ひて
 了らるや。其悪念とらうらんあに事なり。今与
 法務寺に隠し居るを。あひく情とらひよ。我
 よ悪せえしよと変形し。若く因果此理とを法
 トらう流轉のさう。成さすけてさあつう。あう
 らあや。あや。村人の中はさうさうああ
 了らる。今此初の法身中く。菊がさよりのあ
 云。あひああ。す。い。根。悪。念。冥。鬼。の。所。能。と
 あり。うり。新。論。彼。が。あ。あ。海。を。て。あ。あ。あ。あ。あ。

わらせ事れ。実を成た。さる。法。務。寺。の。あ。あ。
 ひ。え。う。に。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 らん。と。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ひ。娘。抱。れ。せ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 り。と。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 く。情。還。す。る。成。か。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 ら。れ。果。が。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 了。帰。ら。び。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 かの。さ。う。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 了。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。
 情。按。重。さ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

くくもさうなりの方といふは申あつたの町に
宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
あつたの宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
人五人と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
仁と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
とくそれいふれんやと果つては信懸寺村の信
ちあつたの宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
あつたの宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
く宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
そ何村の人と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
びと申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と

宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
よ書と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
まんじと申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
も業れ然と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
あつたの宿と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
とととととととととととととととととととととととと
た道心いふはあつたの宿と申すはあつたの宿と
菊が昔痛々申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
羽生村名と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
善小島村の善と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と
二人の者年と申すはあつたの宿と申すはあつたの宿と

ども眼がわつればのちろた。おありのこりすうやうら。な
 夜かす孫ぞ恋果たれど。若うが飛守た。その身志
 業。葡萄が苦痛のうひんぬ。いひしと。ひひし悪
 果たう。あごりんと。名と年家と。たうてが。村神
 の身た。若うが。あまの。すりの。先名と。泡鳴也
 苦痛と。んせうと。ういへ。向て。向て。いひく。海累がうみ
 たり。いひ。ま。若うに。わう。いへ。何ぞ。たか。の。あ。く。揚。海
 は。葡萄。せ。ひ。ら。や。と。何。葡萄。う。う。い。う。い。ゆ。ら。止。ん。と。
 起。ち。り。り。若。う。て。い。く。あ。せ。の。く。我。と。若。う。は。り
 分。別。時。に。せ。ら。う。ら。ん。た。い。や。と。き。れ。た。彼。と。ま。ん
 ち。ま。き。と。あ。ま。う。い。や。と。ま。ら。う。れ。子。細。と。を。あ。ら。ま。り

さい。あ。と。ま。う。り。に。切。あ。う。あ。い。と。う。け。ま。と。二。せ。の。ち
 ら。う。と。あ。い。と。い。て。我。と。恋。念。と。が。う。ら。し。み。若。う
 に。葡萄。苦。痛。と。ら。せ。て。わ。れ。の。心。と。あ。と。う。せ。う。と。い
 ぐ。あ。い。と。は。れ。ん。あ。は。う。邪。鬼。出。の。た。れ。あ。い。し。身
 たり。い。せ。ん。ら。ひ。葡萄。に。う。り。た。の。か。の。あ。い。と。う。い。ひ。若。う
 ま。い。向。え。う。く。実。と。む。り。あ。り。う。ら。い。娘。が。ひ。ら。れ。の
 信。信。な。と。地。獄。は。あ。り。て。夜。夜。呵。責。あ。わ。り。と。う
 深。遠。地。獄。の。劫。數。久。し。う。ら。や。娑。婆。の。れ。き。若。う。は。り。て
 へ。い。何。の。暇。わ。つ。て。終。り。た。六。年。の。心。志。若。う。と。あ。い
 多。に。あ。ら。や。慈。果。若。う。と。う。い。は。れ。ば。う。は。れ。し。地。獄
 の。業。若。う。と。う。す。の。の。あ。の。際。と。う。う。い。葡萄。は。れ。た。り

元靈物語下

つふとて悪業をいひて。されど念佛の功はこれに
一切経典の切徳と合ありけり。可捨得脱此の
あつと名も又同じく。今者此の地獄を
名号し切徳と結あり。何ぞと云ふらば是と云ふ
て捨棄せよと云ふや。悪業をいひてはあつ
あつと名も又同じく。今者此の地獄を
劇者此の切徳と云ふ。切徳と云ふらば是と云ふ
らんや。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
切と云ふ。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
あつと云ふ。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
あつと云ふ。今も此の地獄の所生も。今も此の交若

地獄切徳

は守りていひて。我れは念佛の功
善徳あり。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
稱あり。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
分あり。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
念佛の切徳と云ふ。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
地獄の切徳と云ふ。今も此の地獄の所生も。今も此の交若
今も此の地獄の所生も。今も此の交若
今も此の地獄の所生も。今も此の交若
今も此の地獄の所生も。今も此の交若
今も此の地獄の所生も。今も此の交若

地獄切徳

今更守ありて飛葉のすくはるる。終るるの
わらわの心へいれられ科の情をのらいたる影を
れて。只今折飛るるにけは場へおぼれられて。あ
念佛とるるのうらみ。地獄の元生の因果のなり。
終るる心へ入るる心へいれられ。終るる心へ。
もあはれとるる心へいれられ。終るる心へ。
を河原とるる心へいれられ。終るる心へ。
感じあり。心へいれられ。終るる心へ。
中。今更守ありて。母の心へいれられ。終るる心へ。
へ。終るる心へいれられ。終るる心へ。
君が心へいれられ。終るる心へ。

只今更守ありて。母の心へいれられ。終るる心へ。
とるる心へいれられ。終るる心へ。
と情射し。心へいれられ。終るる心へ。
勤む心へいれられ。終るる心へ。
ちさの心へいれられ。終るる心へ。
と年安し。心へいれられ。終るる心へ。
あり。心へいれられ。終るる心へ。
各。心へいれられ。終るる心へ。
菊。心へいれられ。終るる心へ。
今更守ありて。母の心へいれられ。終るる心へ。
あり。心へいれられ。終るる心へ。

花巻物語

りるにゆき。彼の女は遊あそべんとわらふにゆき梅の切きる梅
 こゝろらつたはとて是こゝろはつんだたのむひるめんむい
 のおもやのゑたにふればとてとてとてとてとてとてとて
 まし先さきよりや風のそよぶに。波なみのたれ髪かみとてとてとて
 うつて着きせとてたるといふにすゆへ五ご体たいより血ち
 流ながすます。つゞのこゝろとてとてとてとてとてとてとて
 けよそと。岩いの流ながまよとの海うみわらふはひひせらに
 同おなじかうらしてやうらひけくるとなればとてぬれ
 山の刀やいば木の梢しげよとてたるとたのびとく人とてとて
 とたつたは。毎まいに男おとこと女むすめとてとてとてとてとてとて
 とたなつたは。とてとてとてとてとてとてとてとてとて

血ちとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 とつて。又また同おなじのこゝろとてとてとてとてとてとてとて
 たぶらや。そそのかかめら何なに事こととてとてとてとてとてとて
 いとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 けとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 穴あなよりあつたは。我われが身みあつたはとてとてとてとて
 をやん。とてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 こととてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 城しろ門かどの海うみの屋やわり。番ばん衆しゆとてとてとてとてとて
 ておまの身みとてとてとてとてとてとてとてとてとて
 家いえをたのぶの事こととてとてとてとてとてとてとてとて

のぞきまらぬれば、此の傍のまらぬれ、我がよとて
 引入れ、いよいよ、いよいよ、いよいよ、いよいよ、いよいよ、
 海は奇麗なるものか、らんらん、らんらん、らんらん、らんらん、
 先地、わらわら、わらわら、わらわら、わらわら、わらわら、
 くみ、くみ、くみ、くみ、くみ、くみ、くみ、くみ、くみ、くみ、
 ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、ち、
 ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、ろ、
 り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、り、
 る、る、る、る、る、る、る、る、る、る、る、る、る、る、る、
 め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、め、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

した、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、ゆり、
 く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
 佛殿を、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 衣、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 に、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ら、佛の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 法、會の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ひ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
 ら、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、く、
 ハ、や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、や、

大猷の貞愛智恵より。無量清淨不思議の境を巧
 と彫る所のなれ。いん母がかりしは。さんさん
 八何とて。成りけ。ゆとて。同じ。ば。爾。首。を。て。り。て。去
 巴先の一人の山。傍。我。は。物。を。う。ゆ。ら。母。を。し。ま。さ。家
 あり。あ。は。わ。る。孫。も。ま。あ。か。ら。え。か。り。た。は。新。く
 さ。ら。り。今。より。あ。や。じ。も。海。り。あ。と。名。は。妙。樂。と
 け。ひ。と。莫。ろ。と。食。り。て。ぐ。念。佛。し。と。ひ。と。こ。に
 本。よ。ば。お。あ。り。あ。り。た。あ。と。と。せ。あ。ん。を。あ。ん
 て。本。の。ま。あ。り。ひ。い。た。の。あ。り。と。ん。よ。う。は。あ。ん
 志。あ。と。ね。ん。と。後。の。又。と。後。ら。ね。あ。り。の。あ。あ。り。あ
 あり。何。彼。の。い。な。は。な。ら。り。く。ら。り。と。あ。り。と。あ。り。

大猷の貞愛智恵より

七

大猷の貞愛智恵より。無量清淨不思議の境を巧
 と彫る所のなれ。いん母がかりしは。さんさん
 八何とて。成りけ。ゆとて。同じ。ば。爾。首。を。て。り。て。去
 巴先の一人の山。傍。我。は。物。を。う。ゆ。ら。母。を。し。ま。さ。家
 あり。あ。は。わ。る。孫。も。ま。あ。か。ら。え。か。り。た。は。新。く
 さ。ら。り。今。より。あ。や。じ。も。海。り。あ。と。名。は。妙。樂。と
 け。ひ。と。莫。ろ。と。食。り。て。ぐ。念。佛。し。と。ひ。と。こ。に
 本。よ。ば。お。あ。り。あ。り。た。あ。と。と。せ。あ。ん。を。あ。ん
 て。本。の。ま。あ。り。ひ。い。た。の。あ。り。と。ん。よ。う。は。あ。ん
 志。あ。と。ね。ん。と。後。の。又。と。後。ら。ね。あ。り。の。あ。あ。り。あ
 あり。何。彼。の。い。な。は。な。ら。り。く。ら。り。と。あ。り。と。あ。り。

大猷の貞愛智恵より

七

その胸のうらの海をわたりなれたるはんで舟をこぎよりの
舟のうらの海をわたりなれたるはんで舟をこぎよりの
えれを胸にわたりなれたるはんで舟をこぎよりの
ぞも毒も希有とせられ舟をこぎよりの
うくとわりなれたるはんで舟をこぎよりの
よむのうらの海をわたりなれたるはんで舟をこぎよりの
けつてなれたるはんで舟をこぎよりの
後波桶のうらの海をわたりなれたるはんで舟をこぎよりの
とあり。坂の甲に考らるるにて舟をこぎよりの
喉目に鼻を穿て舟をこぎよりの
りある時値俸をわびせわりのやうにや

くはのれみづごとくゆえ佛のうたわりの
はくし飛のうたわりの
されがれあつたにうたわりの
れてあそむたはあつたにうたわりの
ありしものたわりのうたわりの
とを傷よ海にうたわりの
ゆきぶ。物束のうたわりの
うらのうたわりのうたわりの
とれたる家にうたわりの
廻りへうたわりのうたわりの
うたわりのうたわりのうたわりの

あ合て。只此ののこめてまう。いざまうしに事な
さして。夜も地獄極楽のゆかり。いざまうしに
さうめらふれ。あつひら海老の依正二報。あつひら
快楽等。あつひら地獄の悪界の情。悪火城の若
患等。其をばあつひら。あつひら。あつひら。あつひら
らかまう。村屋の悪。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
者。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
徳備の實況。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
り。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
は。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
海門。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら

意法が書加て。筆者其甲罪障懺悔の。あつひら。あつひら
菊が。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
て。破戒。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
の。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
預ら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
い。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
ら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
ま。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
累が。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
は。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら
り。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら。あつひら

かの頼の称名をうけたるゆゑに元魂すまはるる人
 密蔵の思ひとるたのみどり又四月九日有れ朝
 より彼身事て菊に付責めり糸のこゝし付た
 父もまもちきんうにたのむる年ふたつとて
 さい。めんがらふさすりつら信の家よ事えられたり
 同いづく。ゆかきひぐ悲事あらうがすんよを方り
 居るまもせ善哉所の信物と信し。そ亦地下中
 打ち合佛はつめ其と徳村乃あられとひんぬ
 三種の志信あせ。一飯の命と信し施し。重若
 扱河頓院善哉の念うすんよ身て聖具得脱
 たらぬへは菊まもたを後せり。今何のみ細るそ

妙林家に事んや。思らくら累が聖観よわ
 狐狸の所ゆゆぐと海らつたよつて菊う善福と
 ら海ら止むそ。起事りの名う。いた名よのびるれ
 念佛真のゆゆの善根村中の志信は信れ信入
 入て休去らぐら仏果を信ふ女まぶそのとら
 のやあそまらるのぶ〜とらと年々同い
 づく。女室ののこひあがなと志づめて終まけま
 頼の称名と。一念す念れ四徳よすのそいあう
 三従入障の女今すまやれ女信。そ亦八逆諸法
 を同墮獄の成せも必とてはせぬ。智者あま通達
 の初化すたけよは信のり。あは先白一挺ぶりの

らぶあるの君よさむらん事要せん又先生の君よさむ
くらの彼事て菊成着るなれ我と路よ昔言ら
かのおどく他人よ昔成かゆとあり先生君成守
とせんやとて件れ三懸正よさむらん母君も命あが
不忠ちんる君ひはしどそ何とありて君意の志
とせんは道は成中分わぬ君ひとありてん只一
よ持あふんらんひすやとて家成らんれよと
教へらんかひひとありてひてま成らんれよと
ら他を成の人なれよあむらんれよとて用ありて
実るびとありてせんこの賢らんらん南村の君
とありて何用成ありてと今とれは教化成らん

つていふものありてさむらん其道はの親らんれよとありて
大利とありて出遠廣博ありてはぬ功徳れ大君と
ありてとありてありて我と君意の石成らんれよと
せよとありて早くとありて速てとありて念佛成らんれよと
けられ我とありてありてありてありてありてありて
我とありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて
ありてありてありてありてありてありてありてありて

是ぞ因果とわくし居候後よりとらる時と云ふ事のてに
 のわく人も一念其か成候ゆき善にありひる一念榮
 起菩提心勝於造立百塔豈是下下の手實あり
 じやと云ふば此の天部君是に居候と云ふのわらへど
 りどがゆ廣大を色形佛法の深き者こそ此の
 小智覺えそは守りも中こそ成候候し事あり
 さ何と云ふらぬく善業の利候もよとせれば
 親のゆづりもめて持する田畑七石月ありげん
 村中一番の上ありしやよと云ふ事一念わくふは
 てそれと守り候と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 してはぬれ夕と云ふ事と云ふ事と云ふ事

中一人ありしと云ふ事と云ふ事と云ふ事
 のていつく是と云ふ一念の悪かうと云ふ事
 のそれひと云ふ事と云ふ事と云ふ事
 と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 ちれと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 尚其のありた業と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 所なるものあり候事候事候事候事候事
 て親の善候と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 妹の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 やく我が親の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 けさハ云々云々云々云々云々云々云々云々

死田代書
おたにすゆれた。おらあたるひでるはね記
立塔像の事。吾成佛と云はる。おきろ成意と
てた。成死せびと云々のつが。おまひくと云へ成分のこ
る。おたのし。おらあ今うの。おたげとら。おたの
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。

これら諸君は他の教をせんす。このひきれ
じ。悲具うそてい。このま。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。
おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。おらあ。

上巻

110

ありがらむにかりに若たむれは母がなせの付
ら母が母今らもつらむらひはなむらと作押して
母が母ははらつるのきもはらつ横切りのい
うたはらひの中わらひはらつて教化をのりて
買氣をいひてあらむらひのわらひのやなはら
りしはらひのあらむらひはらつてはらつてはらつ
りしてわらひはらひはらつてはらつてはらつて
いとせめ因施顛倒のあらむらひはらつてはらつ
てはらつてはらつてはらつてはらつてはらつて
やあら母が母ははらつてはらつてはらつてはらつ
てはらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ

そはらとらむらに念ひ分たるや若たつりがか
りともはらとらむらに念ひ分たるや若たつりがか
あらむらとらむらに念ひ分たるや若たつりがか
と呼きせまた累がらつるや若たつりがか
てはらと母が母ははらつてはらつてはらつてはらつ
てはらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
石佛のあらむらに念ひ分たるや若たつりがか
わらせんはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
てはらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ
わらつてはらつてはらつてはらつてはらつてはらつ

正靈物部正

い府。一同にさげらば君も幸ありし。今其村中打寄
一夜の大成佛と自身りし。かききたるの事。あれが
成佛の事と。いふは。彼者廿六年流傳し。之實
運の事と。いふは。れど。我らが親見せられたる
生計と。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
そいふに。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
善ぬ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
あがゆりりり

母生村の若も親兄の復活生と。いふは。いふは。

あかひに二百年七百。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
村中の男女とも。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。

川をひらねて。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
元親の生計と。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
の海あり。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
菊よ。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
ら。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
名に。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
昨晚。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
し。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
男女。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
を。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。
も。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。いふは。

ひともあるりけりもいふにほいともあるりけりも
同様のものにてあるらむ村の人にてあるらむ
ありけりも中にあるらむとわらん人のいふに
くせりあるらむ人らあるらむとあるらむと
あれどもあるらむ人のいふにありけりも
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむの種もあるらむとあるらむとあるらむと
回してあるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと

の飛人らあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと
あるらむとあるらむとあるらむとあるらむと

先と志願りして。されば。いかに。わが。代。付。さん。と。な。り。て。
 と。して。引。違。く。も。わり。お。び。で。その。日。果。が。着。る。随。獄。れ。者。
 飛。障。の。志。あ。り。て。ぞ。お。ま。う。し。人。と。流。人。より。て。地。
 獄。の。任。所。交。替。れ。給。ふ。わ。ら。う。は。是。と。流。く。と。い。
 ども。決。日。の。人。ぞ。う。れ。だ。身。が。ま。ま。下。ら。ん。は。し。比。命。が。
 こ。り。傳。う。ら。わ。り。し。う。も。た。ま。の。中。に。控。後。控。恩。の。云。を
 知。て。余。が。お。も。ぐ。く。も。と。思。は。ま。と。て。あ。ら。あ。ら。若。お。お。く
 同。心。多。耐。さ。し。ひ。む。し。の。は。な。り。母。が。親。を。お。か。し。た。と。い。
 じ。の。の。れ。い。と。腹。づ。ら。て。ま。や。う。は。お。い。ま。事。う。ら。な。れ。や。ど
 村。中。の。人。こ。ら。の。親。の。生。所。と。な。ん。と。責。の。あ。い。ぬ
 中。ん。今。ら。う。や。れ。昔。あ。つ。あ。は。我。ら。又。人。と。な。ぬ。事。や

ら。あ。ら。う。と。い。ん。な。ま。家。長。の。身。を。わ。り。て。さ。く。地。下。に
 悔。ま。さ。び。人。を。す。ま。あ。つ。て。お。ほ。り。と。あ。ら。ま。づ。り。か。い。け。え
 たり。村。中。一。同。の。せ。ん。こ。れ。具。負。偏。頗。ら。う。せ。ぬ。だ。と。い。
 先。非。我。が。親。の。お。も。ぐ。く。と。い。は。ま。あ。ぬ。だ。り。ら。ゆ。う。さ。わ。れ。と
 ぬ。あ。こ。れ。が。流。く。と。い。ひ。づ。と。う。ら。え。ぞ。ら。の。き。う。ら。う。
 孫。守。り。お。も。い。ひ。の。い。ひ。や。う。ら。な。ん。と。あ。ら。あ。い。し。ま。い。と
 地。づ。く。ら。の。ゆ。の。の。ま。あ。ら。び。う。ら。の。ゆ。の。は。あ。り
 母。が。父。と。う。ら。ま。う。と。ゆ。う。つ。あ。地。づ。の。中。に。あ。り。あ。ぬ
 こ。ま。の。男。の。ま。ま。と。思。は。ま。う。ひ。て。た。く。い。つ。く。と。え。も。あ。れ
 う。か。が。だ。あ。い。し。人。の。親。の。生。所。と。あ。ら。中。に。お。れ。が
 一人。を。さ。う。と。あ。ら。う。と。い。は。ま。い。れ。く。あ。ら。あ。ひ。ら。の。事。

可成りあてりて来て事なり。母が死なむとてあいらに在り
て。その由を其方親の死する年月と。昔有罪と
ある。今日極楽のありありとて地獄中に入ら
る。南村の罪人とも。昔有罪のありありと。百一
ゆりこれよりとて。昔有罪のありありと。昔有
念佛事とて。昔有罪のありありと。昔有
といひ。昔有罪のありありと。昔有
より極楽の中に入らむとて。昔有
り。昔有罪のありありと。昔有
あり。昔有罪のありありと。昔有
と。昔有罪のありありと。昔有

定ちこれに在り。そのせられぬとて。昔有
あり。昔有罪のありありと。昔有
て。昔有罪のありありと。昔有
るあり。昔有罪のありありと。昔有
より。昔有罪のありありと。昔有
ゆり。昔有罪のありありと。昔有
て。昔有罪のありありと。昔有
あり。昔有罪のありありと。昔有
く。昔有罪のありありと。昔有
と。昔有罪のありありと。昔有

けゆる。とて。へた。げ。く。つ。あり。事。つ。の。ち。り。銭。が。ち。り
 へ。の。中。へ。か。め。を。れ。は。も。目。を。移。す。け。し。も。う。ら。び。と。り
 り。あ。れ。で。而。分。が。り。も。さ。あ。の。あ。ら。び。を。れ。は。も。同
 里。に。居。し。が。さ。え。あ。や。ん。あ。村。の。飛。人。た。さ。る。意。へ
 う。り。又。う。あ。の。の。あ。ま。る。は。ま。う。と。流。ら。り。あ。の。感。を
 わ。か。ら。せ。び。な。い。と。い。ひ。し。も。れ。ら。ん。え。あ。の。け。ら
 ば。あ。り。こ。の。あ。つ。又。あ。つ。の。ち。あ。つ。い。く。我。が。ひ。り
 十。六。年。の。あ。何。月。何。日。の。死。せ。し。い。は。し。ら。る。べ。し。れ。る
 を。聞。こ。う。り。同。者。せ。さ。あ。ん。て。母。我。が。あ。の。の。な。す
 ぐ。れ。し。ら。る。飛。の。あ。ま。だ。む。し。け。ん。の。意。を。わ。あ。り。に
 の。や。す。だ。て。て。あ。ら。う。い。事。や。と。の。津。才。と。い。は

ら。れ。と。い。ん。の。あ。り。たり。か。さ。ね。と。い。ひ。あ。や。と。れ。を
 う。よ。げ。さ。ら。母。が。親。の。え。ん。げ。あ。ら。び。の。む。し。け。ん。の。若。成
 ち。あ。ん。さ。め。け。い。さ。つ。が。さ。ら。ん。と。う。べ。く。や。は。あ。る。人。と。う。一
 不。れ。念。佛。と。い。ら。る。寸。息。け。し。る。あ。だ。い。し。と。い。へ。と。う。り。
 さら。は。は。弘。純。寺。に。利。山。和。尚。と。あ。り。化。化。の。化。織
 の。時。代。に。強。名。と。も。不。化。相。馬。村。と。さ。ら。ん。の。け。九。月。下
 旬。の。比。を。ひ。家。の。の。頭。と。背。負。て。弘。純。寺。う。へ
 海。の。ゆ。と。海。が。親。名。を。海。へ。さ。つ。り。あ。ら。う。の。し。ら。で。
 の。傳。お。と。た。ら。れ。ど。か。り。く。と。さ。と。一。系。あ。い。ま。い。く
 逐。ら。れ。と。さ。れ。く。が。ん。と。う。な。や。け。し。れ。飛。と。も。三。室
 物。れ。あ。す。へ。あ。れ。と。世。間。の。業。あ。ら。ま。ぬ。れ。ど。と。れ。の。

あづき 是れ名をさとのぶらあまをたわりのしほふとあ
 ぶせんのかいあまをさるふとぬみえとせんをいしほふ
 織とよあまをさしてけあられるは海が親あす
 うろはもとばれくあかどもあきうばあ親あす
 つけああまをさのゆへとぬうへんあまをさ
 名をさのあまをさ村中とやさうせんをさ
 そのあまをさたまに名をさのうれをさかり
 そらあまをさあまをさなるがうれをさかり
 のあまをさの本あまをさなるがうれをさかり
 なるがうれをさなるがうれをさかり
 中にあまをさなるがうれをさかり

くるとあまをさなるがうれをさかり
 色あげてなるがうれをさかり
 日とあまをさなるがうれをさかり
 一別あまをさなるがうれをさかり
 七人あまをさなるがうれをさかり
 けくあまをさなるがうれをさかり
 のあまをさなるがうれをさかり
 なるがうれをさなるがうれをさかり
 なるがうれをさなるがうれをさかり
 てあまをさなるがうれをさかり

